

HOPES
ホープス セカンド
2nd

強豪・県立福島商業高校の野球部で、2年生ながら、春夏の大会の先発マウンドも任されてきた大内投手。「バッターをどう打ち取るか、駆け引きが楽しくて、マウンドを降りたくなくなります」という伸び盛りのピッチャーです。ピンチになつても、「ここを抑えてこそレベルの高いピッチャーになれる」という強い気持ちで打者に向かいます。「ピンチはチャンス。気持ちでは負けない。起きたことは取り返せないの、次の

「ここぞー」の場면을投げ切りしたい

大内 良真さん（佐須）



村のスポーツ少年団で野球を始め、避難後は福島市の少年野球チーム、飯館中学校の野球部に所属。現在は県立福島商業高校の2年生で、同校野球部の投手として高校野球の舞台上で活躍しています。



準優勝した夏の高校野球福島県大会。先発を任された対湯本高校戦で力投する大内投手。威力のあるストレートと高速スライダーを持つ本格派右腕として注目を集めています。

プレーを大事にします」。

チームの中心的存在となり、その自覚をもって甲子園を目指した夏。県大会準優勝という成績も、「惜しかったと言われるのが悔しい」と言い切ります。決勝戦後、先輩に自分の投球を詫びた時、逆に「お前がいなかったら、ここまで来れなかった」と口々に言われて、涙が止まらなかったそうです。

大会後に参加した中学校のクラス会でも、「すごかったね」と声を掛けられ、「見てくれてるんだ」とうれしくなりました。「それだけに期待に応えなかった」。そして、「今の自分があるのは、震災後の出会いがあったから」と振り返ります。野球を諦めない強い気持ちと地道な努力で「ピンチをチャンス」に変えてきたのでしょうか。

大会中も、報道などを通して、村民の応援を感じていたという大内投手。春のセンバツにつながる地区大会が、早くも8月末に開幕しています。夢に向かって頑張ってください！

〈編集後記〉

●「久しぶりだね!」「元気だった?」「平成最後の今年の夏、懐かしい顔と顔が村で再会する場面に何度も遭遇。「あゝ夏だなあ」としみじみしていると急な夕立に襲われることも度々。これも夏らしさかと実感。思い出には匂いや音などの五感の他に場所と時間も大切な要素。新しく完成したスポーツ公園ですてきな思い出がひとつでも生まれますように。(木幡)

●「数年、運動する機会が全くと言ってよいほどなかった私。スポーツ公園のグラウンドオープンで皆さんのキラキラの笑顔を眺めながら、ああやっぱり体を動かすのついでいな」と改めて思いました。健康づくりの特集を自らの戒めに、ままでにコツコツ、明日からではなく今日から(特集読んでみてくださいね)、健民を目指したいと思います。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。